

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
43

2015 霜月・師走

布教の軌跡
金剛禅の現在
と今後の展望



金剛禪の現在と今後の展望

組織機構改革の余波について

2011年度、少林寺拳法グループが組織を挙げての機構改革に取り組んだことは、いまだ記憶に新しいところです。もちろん金剛禪総本山少林寺においても、金剛禪布教の更なる充実を図るべく、創始以来ともいえる大規模な事業に着手しました。

そして、2013年度末、果たして全国の道院が金剛禪の布教機関として、これまで以上に公明正大な活動のできる環境が整うことになりました。

とはいうものの、金剛禪教団を大きな船「金剛丸」と例えると、その機構改革は、荒れた海上の厳しい航海であったことは間違いなく、乗組員である全国の道院長・門信徒にとって大きな負担が発生したことは動かしようのない事実でした。改革の中、やむをえない事情で休止してしまつた道院や、修練場所の変更からどうしても通えず、休籍する門信徒も多く見られました。

その結果は、門信徒の年度入門数にも如実に表れています。

実態見直しが発表された2012年度と、活動形態の移行期間であった2013年度を比べると、実に約1500人も入門者が減少という結果になりました。これは全国道院長が形態移行に注力するあまり、入門推進などの布教活動にまで手が回らなかった結果ともいえ、道院長の負担がどれほどまでに大きかったかを表しています。

そしてこの減少傾向は2014年度も続き、前年度の下げ幅ほどではないものの、組織力の継続的低下を連想させ、一部の道院長からも金剛禪の行く末を不安視する声が聞かれました。



入門者数が上昇傾向に

ところが、機構改革から一年後の今年度(2015年度)、そのデータに、僅かながらも変化が見られたのです。

年度途中(8月末)のデータではありますが、今年度入門者数が前年度上半期数を「上回った」のです。

それは、数にすれば50人を超えた程度で、本当に微々たるものであります。しかし本山では、その変化を非常に大きな動きとして、転機につながるものと捉えています。

金剛禪総本山少林寺が宗教団体として、また道院がその布教機関として、堂々と地域に展開できる環境が整った昨年。とはいえ、改革の反動は大きく、全国の道院長がその整理や後始末に追われていたことは想像に難くありません。しかし、その反動もようやく落ち着きを見せ始めた今年、基盤の充実した各道院が準備を整え、草の根的に布教戦略を実行した成果が、じわじわと始まっています。

るようです。

とある県教区長からも、「感覚的にその傾向は感じている。特に今年はそれを強く感じる」との言葉を頂いています。



担当/永安正樹

教区における教化育成活動の活性化

また、今年度の教区講習会・研修会の開催数を見ても、同様の兆しが見え始めています。

これまでも布教基盤の充実の下、教区活動の活性化は常々うたっており、ここ数年、その開催数は増加傾向にありましたが、今年に入ってから動きは特に目覚ましくあります。

公認教区講習会が、昨年度開催総数18に対して、9月25日現在の開催申し込み数が16、本山認定の教区研修会も昨年度総数19に対して今年16と、年度半ばであるにもかかわらず、それぞれが昨年度開催総数に迫る勢いで実施されていることから、その活性化度合いが測れます。小教区研修会に至っては、昨年は92小教区で開催されましたが、今年度に入っただけで100を超える小教区で開催されており、まさに破竹の勢いともいえる教区活動が全国展開されていることが分かります。

これらの講習会・研修会では、易筋行の修練だけでなく、金剛禪の教義について深める講義も欠かさず行われており、金剛禪門信徒としての資質を高めると同時に、各教区における布教師数を増やすという育成的

役割も強くあります。

そのかきもあり、全国的に僧階補任者数も増加傾向にある状況です。とりわけ教区講師としての資格も付随する少法師については、過去5年間定期的に補任請願があり、2011年、13年、15年度はそれぞれ10名を超える補任がありました。なお、この10月には特任対象である中法師の補任も数年ぶりに行われ、全国的に教化育成活動に拍車がかかることが予想されます。



有望な新任道院長、幹部指導者

関連して、道院設立・交代予定者（新任道院長）の意識も変革されつつあるようです。

2013年度以降、道院長資格認定研修会の受講者が、自身の道院活動形態を「専有道場のみ」と選択される方が増加傾向にあることは括目すべき事象です。

*専有道場以外の修練場所を確保予定の受講者とはほぼ同数、もしくはやや上回る割合にある。

なおかつ、その専有道場を「新築」する、という若手道院長候補者も少なくなく、ある受講者は、「背水の陣です」と冗談交じりに答えたつても、「まずは30人集めます!」と屈託なく答えるその表情に曇りはなく、頼もしささえ感じます。

ちなみに、先日開催された「次世代指導者育成講習会」において「道院長を目指すにあたっての障害は何か」というアンケートを行ったところ、「自身の指導力に不安」や「仕事との両立」などは挙がったものの、「専有道場・修練場所の確保」を挙げた受講者はいませんでした。つまり、道院長が幹部に対してしっかりと指導技術や運営ノウハウを伝える

ことよって、その不安は払拭され、道院長を目指す門信徒が飛躍的に向上する可能性が、このアンケートから読み取れます。



「これからの社会に

道院という器が整ったことで、単なる拳技の指導者ではない、これまで埋もれていた「布教師」としての道院長が現れ、育ち、間違いなく増えようとしています。

そして、志ある道院長による努力の結果、新しく金剛禅に入門される方々が増えている現在、より本物の道院、道院長が社会に求められます。そのためにも、やはり時代と地域の変化に敏感になることが重要課題といえます。

少子高齢化の時代といえども、地域によってはやはり核家族が多く住まわれている市町村はまだまだあり、そのような地域に道院を構えられているところと、高齢者の方が多く住まわれている地域の道院とでは、布教の方法、手段は違ってしかるべきです。

ビジネスマンやOLの通勤経路にある道院、ショッピングモールに程近い場所にある道院、ベッドタウンにある道院……、人口の大小はあっても、そこに生活される方々の対象割合について機敏に察知し、その特徴・特性を理解したうえで、「その地なり」の金剛禅布教を考えていき

ましよう。

地域とのつながりこそが道院の強みです。開祖が伝えたかった金剛禅とは一体何だったのか、今一度その志を再確認し、我々が本当の意味での意識改革をすることが、この組織機構改革の完結するときなのかもしれません。



新しい試み

そのためには、本山では道院長や幹部指導者を対象に、さまざまなフォーリーやサポーターを行っていく予定です。例えば、「今ふたたび、燃える指導者を育てる」をスローガンに、布

教研究委員会とタイアップしての

「道院幹部講習会」が先日実施されました。本山で熱気あふれる指導者に触れることで、乾いた草原に火が移り、燃え広がっていくがごとく、熱い指導者を、道院長候補を育てていきます。これまでは、若干技術偏重気味であった拳士の状況に危惧を覚え、どちらかといえば教義に特化した講習会を実施していましたが、まずは易筋行をしっかり和修めたうえで、本来の金剛禅のあり方を示していくという「拳禅一如」の修練法をより具現化していきます。この企画は来年度も実施予定です。

また指導法についても、「科目表」に準じた指導カリキュラムにとらわれず、例えば「絵本」など、これまでと全く違った媒体を使ったの新しい「法話のあり方」を模索しており、少年部教育育成委員会および絵本読み聞かせの有識者と連携しつつ、近々行われる「少年部指導講習会」で紹介

する予定です。またこの指導法に興

味を持ち、賛同される指導者には本山がバックアップし、モデル道院として協力を惜しみません。



とりわけ「法話」については、社会のニーズからも、金剛禅教団としても非常に重要視しており、門信徒だけでなく、部外(地域)の方々へ積極的に展開していくべきと考えています。そのため、来年度については金剛禅教義に特化した講習会も企画しており、教学研究委員会との連携準備を予定しています。

そして、道院活動のあり方についても見直しをかけています。現在はあくまでも入門した「門信徒」を対象にした活動がメインとなっており、が、「門信徒以外」の方、つまり入門されないままでも道院に集い、金剛禅に慣れ親しんでいただく活動・方法について、検討を進めていく予定です。

既成概念、固定観念にとらわれず、これからも金剛禅教団は挑戦していきます。かつて開祖がそうであったように。



開祖語録 ダイジェスト

1976年度
第3次指導者講習会

ふだん着の 金剛禅

東京別院 別院長 藤井 省吾

まず実行の人たち

9月、台風18号の豪雨により鬼怒川の堤防が決壊し、常総市が大きな被害を受けました。するとすぐに現地入りし、迅速に復旧活動に取り組まれる道院長・拳士の姿が見られました。同時に、全国各地の大会や講習会において募金活動が始まったと聞きました。同様の状況は、私の知っているだけでも、阪神・淡路大震災、東日本大震災でもありました。今回の被災地では、茨城をはじめ

関東の道院長・拳士や、現在も復興支援を続ける「陸前高田チーム」が活動されていますが、改めてその仕事を見ると、「決断が早い、手際がよい、よき人が集まる」という特徴があります。現場には、トラックや発電機、高圧洗浄機、大型のタンクなどの機材が持ち込まれ、骨身を惜しまない拳士による息の合った動きと相俟って、それは見事に作業が進みます。各地での募金や救援物資集め

もそうですが、有事の際、困っている人を助けようと、多くの知恵が集まり、力を合わせた活動が、勢いよく全国で展開されます。「よいと信ずればまず実行してみようではないか。これが金剛禅のあり方の基本なのである」という開祖の言葉を目の当たりにし、少林寺拳法グループに所属できることを誇りに思うとともに、微力ですが、そのあり方を後進に伝えることに努めていきます。

私が中国で見た中国人たちは、放っておいても固まって、泥の家を建てて住んでいた。砂と違って泥には粘着力がある。帝王が誰に代わろうと、社会制度がどう変わろうと、何が起ころうと、彼らは横につながってたくましく生きていた。

私は、中国を馬鹿にする教育をされて、中国へ行って、その国のよさを見つけたのです。それで、日本の幸せも考えるが、中国人の幸せにも通じるようなことをやろうとした。わしの10と、君の10を、どこかでうまく支え合って20にしようじゃないかと。

「半ばは他人の幸せを」という考えは、だから半端ではない。半分は自

分の幸せ、日本民族のため、半分は他人の幸せ、他民族のためというのは、私が体験した歴史のいろんな事実を踏まえています。またこれが天地、陰陽のバランスというもので金剛禅運動の根本です。

「己れこそ己れの寄るべ」は、自己の存在をしっかりと確立することが基本です。そういう基本的な少林寺拳法の原点の思想を「教範」に書いた。原子爆弾や自動小銃の時代に、無手の格闘術の一派を広めて弟子を取り、何ぼか月謝を取って食べようと

いので少林寺拳法を始めたのではない。日本民族の生き方、将来の国際社会での日本人の生き方、本当の世界平和、人類の幸せのためにはどうしたらよいか、そういった遠大な含みの中で少林寺拳法の運動は始まった。これが原点なのです。

リーダーとしての君たちには、少林寺拳法のこの原点を、どうしても納得してもらいたい。制度的にも、生き方の中にも、生きがいと誇りを持つてるように、やればやっただけのことがある世界である。

「教範」は100回でも読め

「人、人、人、すべては人の質にある」

昨年末から年明けにかけて結婚式の招待を受け、UAE(アラブ首長国連邦)のドバイに行く機会を得ました。新郎は、イタリア系カナダ人、新婦はアラブ系パレスチナ人で国籍はヨルダン、住まいはアブダジなのですが、親戚の多くがドバイ在住で、家長にあたる方がドバイということからドバイでパレスチナ式(新婦の父上はパレスチナ風だと言っておられました)の結婚式がありました。

現在、日本の結婚式は周知のごとく伝統的な式は少なくなり、神式、仏式、キリスト教式、人前など、何でもありで、宗教的な敬虔さが感じられる式は少ないといえます。ちなみに私は、スイス連邦共和国ルツェルンの教会でした。私も妻もキリスト教徒ではないのですがそのときは神に誓いました。パレスチナの結婚式に話を戻します。夕刻からの開宴です。パレスチナの民族音楽とともに新郎と新婦がリズムに乗り踊りながら入場、入ったところで家族が中心となり親族とともに1時間ほど新郎新婦を囲み、手に手を取り祝福の踊りをします。これが感動的でした。心を打たれました。民族的な踊りの中

に、悠久から引き継がれてきた宗教的な雰囲気を感じられました。そして、そこには家族を思いやり、祝福し、喜び、感謝する人間の敬虔さを感じました。民族に関係なく、慈しみ、思いやる気持ちは共通であるという至極当たり前のことを感じました。

彼らは、母国に住みません。事情があり住めないのです。よって、居をUAEに構え、カナダやイギリスに留学し、さまざまな国で民族の誇りを失わずに生活しています。これらのことは詳しく聞いたわけではありませんが、彼らの生きざままで感じることができました。パレスチナのような紛争地域では、生死は表裏といえます。今生きていることが現実であり、その先は分からないのです。

昭和20年(開祖35歳)の敗戦まで、日本国民も満州事変(開祖20歳)以前から15年以上を日々命と向き合って生きざるをえなかったのですが、開祖はその中で、「人、人、人、すべては人の質にある」ということを発見されました。それぞれの立場に立つ人の人格や考え方いかんによって、法律、軍事、政治など、組織のあり方に大きな違いが出るという

ことの発見です。

真の平和の達成は慈悲心と勇気と正義感の強い人間を一人でも多くつくる以外にないということは、「教範」に明記され周知のことですが、このことを我々はもう一度心に刻まなければならぬ時期に来ているような気がします。

「平和で豊かな理想境建設」。この目的の基本は、慈悲心と勇気と正義感の強い人間を一人でも多くつくることであり、そのために指導者や、それぞれの立場に立つ人間が、何を自戒し、どのように行動しなければならぬかということ、真剣に自らに問い直す時期ではないでしょうか。

数年前、私の家に10日ほど滞在した新婦の兄であるアラブ人の若者は、私との宗教談義の中で、自分にとって死ぬことは苦ではない。当たり前なことであり、避けられないものである、と言いました。重要なことはどのように生きるかだと……。深い澄んだ瞳がそこにありました。

現在、彼はトロント大学で医学を学んでいます。



須臾も離るべからず

江別大麻道院 道院長 野坂 政司

開祖が少林寺拳法の創始を説明する中で「中国在留中に学んだ北禅や道、儒等の宗教の中から感じとった真理を精神的中核とし」（『少林寺拳法教範（上巻）新版序、3頁』）と明記しているように、金剛禅の教えには、初期仏教を支柱として、そこに道教や儒教が溶け込んでいる。そのことが具体的に見えるのが「道は天より生じ……」と始まる「道訓」である。「道訓」の言葉には、仏教的な用語よりも、道教、儒教を背景とした用語が目立つが、私たちは仏教、道教、儒教などが渾然一体となった教えを、金剛禅という「拳を主行とする新しい道」（『教範』30頁）として、丸ごと受け入れることが大切で、教えの背景を分析的に区分けしていくような知的作業は刺激的で面白いが、教養を深める程度にとどめて（底知れぬ深さであつてもよいが）、深みにはまらないようにする必要があるだろうと思う。

例えば、『大漢和辞典』で高名な諸橋轍氏は、『孔子・老子・釈迦（三聖会談）』（講談社学術文庫）によって、この三聖の説いた教えの重なるところ、違うところを、仮想的な会談を設定して分かりやすく浮き彫りにしてみた。諸橋氏の筆によるこの小さな本は、東

洋思想の原風景の興行きを魅力的に描いた力作であると思う。とはいえ、この本が示す三聖の教えの差異と共通性がある程度理解しても、あるいは更に広く専門的な知見を求めても、周辺の、文脈的理解が深まるだけであつて、金剛禅の教えそのものを生きることは別であると言わざるをえない。

さて「道訓」に戻る。「道訓は、金剛禅門徒の実践綱領というべきものであり、金剛禅の示す道——ダーマの分霊としての自己確立、自他共楽の理想境への具体的な道である……」（『教範』148頁）と示されており、自分が生きている日常生活の中で教えを実践していくための道標である。

「道訓」の構造は、前半が実践への心構え、後半が具体的実践の指針とまとめからなっている。前半には、道を踏み外すことへの用心として、「その道を失すれば、即ち迷離す」という箇所と、「仁、義、忠、孝、礼の事を尽さざれば、身世に在り（あ）と雖も（い）、心は既に死せるなり、生を偷むもの（ぬす）とゆうべし」という箇所がある。前者の言葉は、正しい道をまっすぐに進んでいるつもりが、気付かぬうちに道から外れ迷ってしまう危うさを突きつけてい

る。後者の言葉は、儒教的色彩の強いこれらの徳目を社会生活の中で実践し生ききるのになければ、「命泥棒」に墮してしまふという警告である。

この「拳を主行とする新しい道」は、「ダーマの分霊としての自己確立、自他共楽の理想境への具体的な道」である。拳を鍛え錬ることの魅力に惹かれるあまりに、その道が向かう先を忘れてしまふことがあれば、それは道を進んでいないことになる。逆に、道が向かう先ばかりを見て急いで進もうとしても、拳の修練を着実に重ねていなければ、その道には土台も中身もないことになる。道を進んでいくと思ひ込むのではなく、先を急ぐだけでなく、八方目を駆使しながら、この道を離れることなく確実に進むことが肝心なのである。



ダイジェスト



志をつなぐ

ながた まさき
長田 正紀 186期生
少法師大範士八段

山門衆時代、未熟な私たちをご指導くださったのは三崎敏夫先生でした。先生のご指導は、おのおの個性を生かすというもので、心に響くそのお言葉は、驚きとともに私の視点と思考を大きく変えてくださいました。山口西京道院設立の際、「門下生は道院長についてくる。君がしっかりしていたら、よい人材が集まってくる。反対ならいいかげんなやつ

教えを垂れて人を導く 心に響いた恩師の言葉

しか寄ってこない。立ち居振る舞いに気をつけなさい」と言われました。開祖も三崎先生も、短い言葉に教えの神髄が詰まっております、大変分かりやすく具体的に教えてくださいました。これからも、開祖と、それこそ身近に寄り添って教えてくださった三崎先生に報恩の誠を尽くします。

※プロフィールや開祖の思い出など、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

▼1968年ごろ、開祖が見守る中、見学者に演武を披露



*山門衆：本山に住み込みで修行する少林拳法の指導者を指す門人。

ダイジェスト



道院長 vol.28 元気^の素

渋谷南道院
道院長 小林 修(42歳)

教え・技法を伝法する同志として、 その体験と感動を味わいませんか

——道院での活動方針・方法の工夫を教えてください。
「明るく、楽しく、全力で」をモットーに、「今日もやったぜ!」という達成感を大切にしていきます。門下生一人ひとりが満足できるような修練内容を目指しています。楽しいときはその喜びを分かち合い、つらいときは心の拠り所となればと思います。道院長も門下生とともに汗を

かく、これが必要なことと感じています。いつまでも挑戦者でありたい。——将来、道院長を目指す全国の拳士にエールをお願いします。
道院長になると可能性が広がります。すばらしい教え・技法を一緒に伝法する同志として、すばらしい体験と感動を味わいませんか。

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。



洛東道院
洛東道院設立50周年記念
洛東祭 2015

2015(平成27)年6月21日、京都市武道センター旧武徳殿において、洛東道院の設立50周年を記念しての「洛東祭2015」が開催されました。

大会は、開会式として奉納演

武・鎮魂行が行われ、続いて、

田原正晴岡山光南道院道院長の

祝辞を賜り、森川是汪洛東道院

道院長が挨拶を行いました。次

に演武として、中高生団体演

武、OB拳士演武、洛東スポー

ツ少年団拳士招待演武を行いま

した。少年団体演武では、乱入

してきた鬼

たちを拳士

がやつつけ

るといっ

コマもあり

ました。続

いて、女性

拳士による

護身術披

露、また優

秀組演武の

発表が行わ

れました。

最後は、遠

くスウェー

デンより駆



金剛禪本山少林寺洛東道院 開設50周年記念洛東祭2015祝賀会



けつけたアンデッシ連盟会長の演武と家族演武が披露され、多くの観客から惜しみない拍手が送られました。

その後の祝賀会では、50年間の歴史がDVDで紹介され、OB拳士は当時を懐かしく振り返っていました。最後に、森川道院長に花束が贈呈され、和やかな雰囲気の中で終了いたしました。(森川和仁)

三重箕曲道院
手作りの式典で、
道院の日常を伝える

6月28日に開催した三重箕曲



少林寺三重箕曲道院設立30周年記念祝賀会

道院設立30周年祝賀会は、宗由貴少林寺拳法グループ総裁、福田博行顧問をはじめとする来賓の方々、ふだんの道院の様子を知っていただきたいという中野嘉久道院長の意向で、専有道場での開催となりました。

式典の式次第・飾り付けは、拳士の手作りで行いました。特に、少年拳士一人ひとりが描いた開祖、総裁、道院長の似顔絵は、来賓の皆様にも好評でした。

鎮魂行を行い、三重県内外で活躍する竹内洋司様の尺八演奏に合わせた演武披露の後、少林寺拳法で学んだことを学校や職場でどのように生かすか、これ



参加したのは、支店長以下、

山口西京道院
金剛禪の教え、
企業の向上に貢献

9月5日、山口西京道院長

田正紀道院長・大範士八段)で

は、地元主要銀行である山口西

京銀行山口支店の企業研修を受

け入れた。

からどのような気持ちで少林寺拳法に取り組むか、作文発表を行いました。

また、OBにも少林寺拳法で学んだことを語ってもらいました。現役の拳士たちも、とても勇気づけられました。

参加された来賓の皆様からは、「心が温まる、すばらしい式典でした」という感想を頂きました。

これからも、金剛禪運動を展開することを新たに決意する日となりました。(白坂晃一)



的を達成できた」との賛辞も。研修受け入れに参加した道院拳士にとっても、自らの修行を再確認することができた貴重な一日となった。(阿部勝美)

中堅・若手行員21名。従業員へのコンプライアンス研修の一環として、同道院がその要望に応えた。

研修生は、「修身としての少林寺拳法と社会人としての応用」と題した法話を聴いた後、鎮魂行や護身術としての技法を学び、また、作務にも熱心に取り組んだ。

研修は、午後1〜4時までの短時間であったが、研修生からは、礼節を重んじる緊張感と、和気あいあいとした道院の雰囲気に触れ、「とても勉強になった。今後の人生に役立てたい」と感想があった。支店長からは、「コンプライアンスは、人

僧階昇任者

中導師

2015年9月1日付
松原 光孝(大垣道院)

佐藤 公紀(船橋宮本道院)

熊谷 光輝(東京府中道院)

西 弘志(東京保谷道院)

志和 寛(東京上野道院)

佐藤 育夫(八王子東道院)

小浜 潮(八王子南大沢道院)

川越 拓実(大森道院)

岩田 康男(横浜霊峰道院)

吉成 信夫(海老名東道院)

山下 裕子(川崎東道院)

荒井 信章(川崎東道院)

藤田 康子(川崎東道院)

三浦 信明(浜名湖西道院)

寺田 和正(名古屋中村道院)

竹内 達哉(四日市僧伽道院)

丹羽 崇彦(四日市僧伽道院)

北島 孝教(大阪池田道院)

末次 平八郎(大阪新淀川道院)

田中 宏幸(姫路手柄道院)

安田 勇哲(津山道院)

川相 功(笠岡道院)

元山 剛(広島五日市道院)

藤井 律子(広島八丁堀道院)

大西 以知郎(高松中央道院)

中島 秀幸(福岡赤間道院)

藤野 哲(福岡大野城道院)

2015年8月1日付

権中導師

二宮 信明(福島中央道院)

常松 信人(須賀川道院)

村本 彰(市川若宮道院)

お布施

帰山

▷田村 英機

(故・田村倉蔵三多摩道院道院長ご子息).....10,000

公認講習会

▷福岡県教区.....30,000

▷長崎県教区.....30,000

▷山形県教区.....30,000

◆東日本豪雨災害「義援金受付口座」の開設について

被災された皆様にご心よりお見舞い申し上げますとともに、皆様の安全と一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

さて、少林寺拳法グループでは、被災された拳士、一般の方々への支援と、支援活動としての義援金を受け付けております。

被災された皆様に対し、支援が行えますよう適切に活用させていただきます。皆様のご協力をお願い申し上げます。

義援金受付

【銀行振込】	
銀行名	百十四(ひゃくじゅうし)銀行
支店名	多度津支店
預金種目	普通預金
口座番号	0965908
口座名義	少林寺拳法台風18号等豪雨災害口 代表 大澤 隆

問い合わせ先／金剛禅総本山少林寺

担当：宮本・廣田 電話：0877-33-1010

または

【郵便振替】	
口座記号番号	01630-1-101256
口座名称	少林寺拳法台風18号等豪雨災害口
※他銀行から振り込む場合は、下記をご指定ください。	
銀行名	ゆうちょ銀行
店名(店番)	一六九(イチロクキユウ)店(169)
預金種目	当座
口座番号	0101256

◆新春法会・稽古始めのご案内

日 程：2016年1月10日(日)

場 所：本山

対 象：門信徒、法縁関係者ほか

お問い合わせ：宗務部 布教課

Tel.0877-33-1010 E-Mail fukyoka@shorinjikempo.or.jp

門信徒の方とともに、ぜひ金剛禅の総本山に帰っていただき、原点共有のきっかけとされてみてはいかがでしょうか。

◆1月度道院長資格認定研修会について

日 程：2016年1月29日(金)～31日(日)

場 所：本山

受 講 条 件：少導師・中拳士・三段以上

(道院長心得。2015年度までの措置)

申し込み締め切り：2015年12月1日(火) 厳守

お問い合わせ：宗務部 布教課

Tel.0877-33-1010 E-Mail fukyoka@shorinjikempo.or.jp

◆本山職員募集

業 務 内 容：各種行事の運営、事務全般

年 齢：20歳～25歳(くらい)まで

学 歴：高校卒業以上

資 格：少林寺拳法初段以上

特 記：パソコンがある程度できる方

お問い合わせ：総務部 総務課

Tel.0877-33-1010 E-Mail s-soumu@shorinjikempo.or.jp

職場という日常生活の中で、自己確立、自他共楽を実施しながら、人間力を高めませんか？ 見学・体験も随時受け付けますので、ご相談ください。



編集後記▶先日、ある道院で助教を務める二人から次のことを聞きました。「うちの道院は、長くやっている助教が7人いて、道院で起こるちょっとした感情の行き違いや不満も、皆の持ち味を生かして解決しています。だからかもしれませんが、皆長く修行を続けてくれています」。▶人が集まれば、対立や葛藤、理想と現実の落差が表面化するのが常ですが、これらを共存・調和させて、より高い次元の解を導くことが、人間的成長や心の成熟につながります。法を寄る辺とした仲間とのこうした営みが道院のよさであり、その価値や喜びを知る道院長さんが乗組員だからこそ、金剛丸は荒波に強い。特集と助教のお話から、改めて思いました。(ふ)

表紙▶河合修 愛知県出身。日本を代表する写真家・藤井秀樹氏のアシスタントを経て独立。2009年5月より「ダーマ」をテーマに、『あ・うん』の表紙撮影に取り組む。中拳士三段。

金剛禅総本山少林寺オフィシャルサイト▶

<http://www.shorinjikempo.or.jp/religious/>
代表法話をはじめ、「宗門の行としての少林寺拳法」を動画でご覧いただけるほか、誌面に掲載しきれなかった記事・写真も掲載されています。

金剛禅総本山少林寺 検索

あ・うん | vol. 43
金剛禅総本山少林寺広報誌 2015 霜月・師走

2015年11月1日発行(奇数月1日発行)

発行人：大澤 隆

発行所：金剛禅総本山少林寺

〒764-8511

香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48

☎0877-33-1010

<http://www.shorinjikempo.or.jp>

編集人：藤井省吾

印刷・製本：(株)ブル・ドック

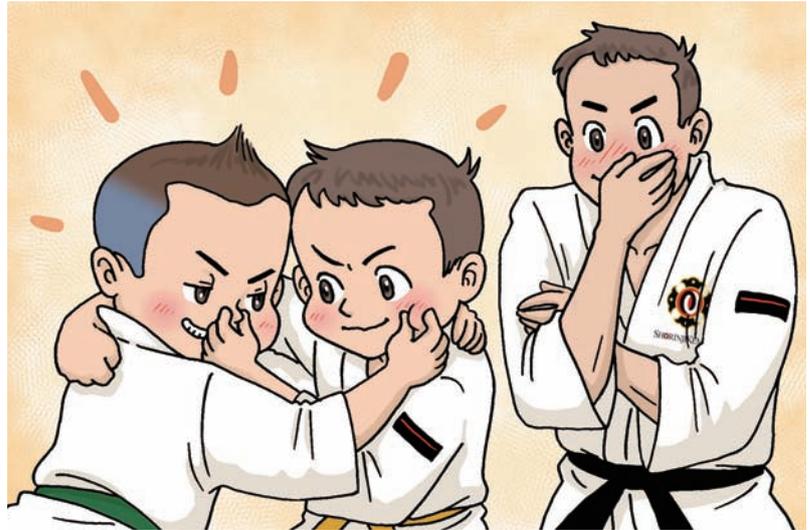
広報誌「あ・うん」追加発送について ◆◆◆◆◆

現在、広報誌「あ・うん」を、1道院につき門信徒10人以上の場合12部ずつ、9人以下の場合10部ずつ、一般財団支部は1部ずつ、毎号ご提供させていただいております。更に追加をご希望の方は、本山宗務部にお申し出ください(追加1部につき50円・送料別途要)。

TEL.0877-33-1010

e-mail: fukyoka@shorinjikempo.or.jp

一期一笑



イラスト/大原由軌子

名東道院 高田 廣司

ときどき仲良し

私は、道院で少年部の指導を任されています。少年部の練習は、準備運動も兼ねて、最初にボール遊びと鬼ごっこをします。

その少年部に、二人の低学年の男子拳士がいます。

この二人は、級が違うので科目練習では別々になるのですが、一緒にやるボール遊びのときには、すぐにつきか合いの喧嘩を始めます。二人を引き離して話を聞くと、「ボールをぶつけた」とか「ぶつかってきた」とか、きつかけは些細なことばかりです。

しかし、この大猿の仲の二人ですが、じゃんけんでは負けて二人が鬼ごっこの鬼になると、顔を寄せて、誰を最初に捕まえるか、小声で相談

を始めるのです。そして、作戦どおり見事な連携でみんなを捕まえていきます。

先日、私は不思議に思っ二人に尋ねてみました。

「君たちは仲がいいのか悪いのかどっちなんだ」と。すると一人がこう答えました。

「ときどき仲良し!」

確かにこの二人、どちらかが練習を休んだときは元気がありません。それに、以前と比べると仲良しの時間がずいぶん増えた気がします。

二人が成長したのか少林寺拳法の修行の成果なのか分かりませんが、いずれにしても道院が、二人にとって掛けがえのない修行の場になっていることは間違いありません。

投稿大募集 道場や拳士のちょっとした話を募集しています。※ペンネーム可ですが、必ず、名前、所属、連絡先もご記入ください。なお、原稿内容の整理・編集をさせていただく場合があります。原稿の選択はご一任ください。〒764-8511 香川県仲多度郡多度津町本通3-1-48 金剛禅総本山少林寺 広報誌担当宛 TEL.0877-33-1010 FAX.0877-56-6022 e-mail: aun@shorinjikempo.or.jp

Ryuka Ken, Kiri kaeshi tembin



宗門の行としての少林寺拳法

りゅう かけん きりかえしてんびん
龍華拳 切返天秤

切小手が流れてしまい、相手の肘が伸びてしまった際に対処する。すぐに掛手を離し、腕刀を使って、伸びた肘に天秤を極める。捌手は切小手の動き(巻き込み)を止めず、手首を捕ったまま腰に引き付けるようにすると、相手の態勢を崩せ、天秤がより掛かりやすくなる。

撮影/近森千展 文/永安正樹 演武者/守者:永安正樹 准範士六段 攻者:飯野貴嗣 准範士六段



SHORINJIKEMPO
少林寺拳法